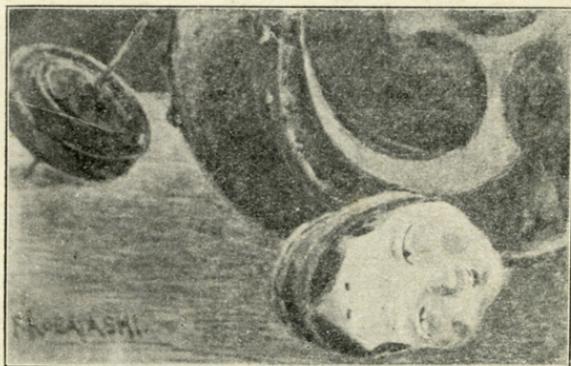


のである。日毎に参詣者はこの水池で案内者に悲惨な物語を聞かされて、賽銭を投ずる。日本では家族的の愛情が強い、親子の愛情や子供同士の愛情が愉快に見える。子供を手荒く打ったり、こづき廻はしたりする事はない。通路でも子供の泣いて居るのや、喧嘩をして居るのを見た事がない。しかし孝行も過ぎたるは及ばざるに如かずで、我のこの國にあつた時に、殺人事件があつた。種々詮議をすると殺人者の母親が眼病で醫師が處方をしたには人の生贖を食はずれば立處に治すとあるのて、孝行の一心に母の眼病を治さうとて自分の妻を殺したのであつた。

日本美術が日本美術品評者の稱賛を博して居るものは、多くは日本の故實を知つたものでなければ解することが出来ないが、古代の木彫は西洋美術と全く殆ど通俗である。で歴寫實の最頂點に達したものがあつた。佛像はそれ相等の由來があり、解剖學も誇大にし表情も不自然で、四肢も隨意の數にする等が、彼等の眞技を損して居るのである。しかし、大名僧等の立像は製作が單簡で品位があるのである。知己の竹内氏は興福寺の重なる彫刻像を模造してシカゴの博覽會に出品した。其後東京上野の美術博物館に陳列した。古昔の巨匠中では運



秋華林小等一やちもお

慶は恐らく有名なものであらう。此の彫刻家は十二世紀の名家で、氏の作品乞食僧は京都の三万三千観音にある。瘦こけた老僧が薄い衣を着けて、左の手に施物を捧げて居る。實にローチの作と比肩すべきものである。(ついで)

アルフレット、バルソン氏は英國現時の水彩畫家なり此紀行は曾て吾國に來朝せし時の紀念にもと紐育にて出版されしものなり。

使用最簡便の三脚几自製法

子の昨春來自ら用ひ又同人に分ちたる自製三脚几は長一尺七寸の棒を上口七分末口五分中を膨らめて丸く削り先第一、第二脚を交叉釘着し第三脚は第二脚に交叉釘着したる上更に第一脚との交叉點に短釘を突起狀に植ゑ以て第一脚に穿てる穴に嵌むる。上面は布張り下端は細繩にて三々の脚を連絡す組立て疊込み共に二舉動て成る(靜遠)

*

*

*

*

*